

インクルーシブ教育推進に係る海外視察等報告 9/15～22デンマーク・スウェーデン視察

目的 先進的に実践している北欧の学校や行政機関の視察と意見交換
 日程 令和6年9月15日～9月22日（移動日を除く調査期間5日間）
 視察先 デンマーク義務教育学校2校、スウェーデン義務教育学校3校、不登校対応校2校、大学1校、行政1市
 視察者 5名（栗本教育次長、酒井義務教育課長、近藤特支課長、狩野特支課企画係長、根岸特支課指導主事）



ビヨンホイ学校
デンマークヘルシンク義務教育学校



アーレンシュレガーデ学校
デンマークコペンハーゲン義務教育学校



ルンド大学
スウェーデンルンド

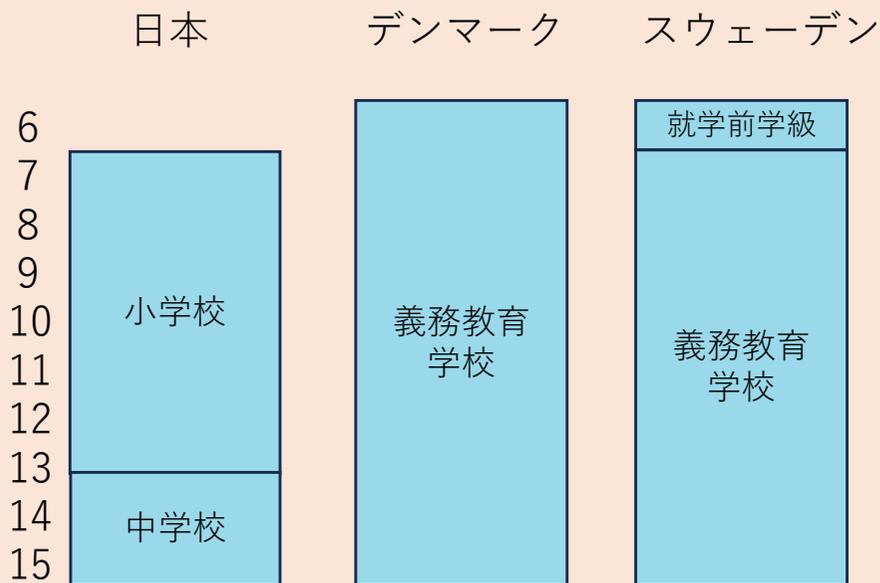


エケルンド
スウェーデンルンド不登校対応校



オスカーフレディック学校
スウェーデンヨーテボリ義務教育学校

学校体系



特別支援教育

デンマーク
 特別支援学校 知的、視覚、聴覚、発達障害など
 特別支援学級 同上

スウェーデン
 特別支援学校 知的、聴覚
 特別支援学級 設置なし

学級規模

1学級20名程度



自由な学び合い (デンマーク)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・授業中、子どもが自由に席を離れ、友だちと学び合う。
- ・一人で学びたい子どもも尊重される。
- ・時には教室を出て学ぶことも許される (別室、集会室など)。



協働的な教員のかかわり

(デンマーク)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・授業の課題を示した後、子どもとともに課題を考えていく。
- ・管理的ではなく、子どもを信頼し、対等に関わる。
- ・この教員の姿を見本として、子どもたちが学び合っていく。
- ・1学級児童20名未満できめ細やかな関わり。
(特別な支援が必要な子どもがいれば介助員も加わる)



スケジュールとピクトグラム

(スウェーデン)

個別最適な学び

- ・子ども自ら動いたり、見通しをもったりする仕組み。
- ・週予定だけでなく、毎時の授業の流れが板書される。
- ・発達段階によってはイラスト付きでスケジュールが示される。
- ・教室の入口にはピクトグラム (点字つき) が設置。



教材・教具、イヤーマフ、 デスクトップパーティションの貸与

(スウェーデン)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・子どもが必要とする可能性があるものを学校が用意し、誰もが利用できるようにする。
- ・家庭環境により教材・教具がそろわない子どもや障害のある子どもにのみ限定するなどしないことで、必要と感じていた子どもは気軽に利用できる。



自由進度学習 (デンマーク・スウェーデン)

個別最適な学び
協働的な学び

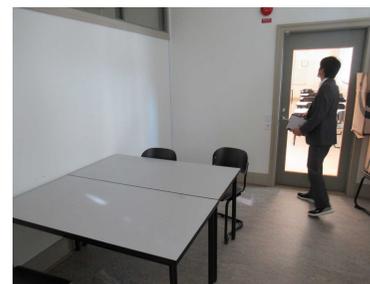
- ・授業の課題が終われば、自分で課題を見つけて学習を進める。
- ・個人端末で様々な課題に取り組む。必要な情報をネット検索し、課題解決を図っていく。教科書のコードを読み取れば、解説動画が出てくる。発達段階に合わせたゲーム感覚の課題もある。



グループルーム (スウェーデン)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・教室に隣接した、小部屋がある。
- ・小グループでの学習ができる。
- ・誰でも利用でき、集団が苦手な子どもや集中したい子どもなどが、集団を離れて学ぶことにも利用される。
- ・ほかにも集会ができるようなスペースや腰をかけて会話できるようなスペースが校内随所にある。



健康チーム (スウェーデン)

個別最適な学び

- ・困難を抱える子どもを洗い出しと校内支援や外部支援機関につなげる組織。
- ・週1回会議をもち、レポートは校長や副校長に提出される。



メンバー

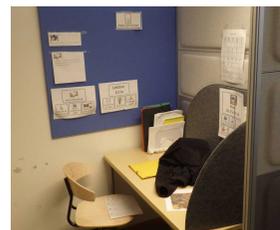
- ・スクールカウンセラー
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・看護師
- ・言語療法士
- ・特別支援教育教員
- ・医師

※医師以外は常駐

別室学習 (スウェーデン)

個別最適な学び

- ・スウェーデンでは、特別支援学級はないが、教室では学習が難しい子ども（特別な支援が必要な子ども、不登校気味な子ども）は、別室で学ぶことができる。
- ・別室には、別室の担当教員もいるが、教科教育は教科の教員が指導に来る。
- ・教室で学習している途中でも別室に移ることができるし、教室で学ぶもの別室で学ぶものとスケジュールを組んでいる子どももいる（全て別室で学ぶ子どももいる）。



相談員 (スウェーデン)

個別最適な学び

- ・生徒指導主事のような職員が、専任（授業を持たない）でおり、絶えず校内を巡回し、子どもに声をかけている。
- ・子どもは、いつも声をかけてくれるので信頼を寄せている。
- ・相談室もあり、（予約が必要だが）だれでも相談ができる。
- ・生徒間の問題を解決することもあり、校長や健康チームに情報が共有される。



不登校対応校 (スウェーデン)

個別最適な学び

- ・小5までは、地元の学校で対応する。以降、地元の学校の校長の要請により通学することができる。
- ・5人程度の小グループで学ぶ学校とほぼ個人で学ぶ学校とがある。
- ・机上の教科教育の他、生活に根ざした活動をとおして学ぶ授業も取り入れることができる。
- ・子ども・保護者と面談しながら学習方法の方針を決めていく。
- ・公用車で通学。



介助員 (ペタゴー) (デンマーク)

個別最適な学び

- ・特別支援介助員のように、専門的な知識を身につけた介助員が正規職員としている。
- ・介助員も種々の会議に加わり、専門知識をもとに支援方針などについて意見を述べる。
- ・支援が必要な子どもがいる授業に支援に入る。



学童 (デンマーク・スウェーデン)

個別最適な学び

- ・学童保育も教育委員会管轄。教育が実施される。
- ・学童保育の職員は学校の授業の支援にも加わる。
- ・スウェーデンの学童は、登校前も開いており、食事の提供もある。



聴覚補助設備 (スウェーデン)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・聴覚に障害のある子どものための音響設備。
- ・普通教室の他、体育館等にも整備されている。



ルンド大学 (スウェーデン)

個別最適な学び
協働的な学び

- ・学生の訴えにより合理的配慮を実施
- ・学生は、大学教員、大学の専門部署、学生組織、学生メンターにも相談できる。
- ・近年、配慮を求める学生は増加傾向（高校で実施されてきた配慮を大学でも求めるため）



デンマーク・スウェーデンの子どもの姿

- ・笑顔が多く、友だちと自ら関わりながら学びを楽しんでいた。
- ・イヤーマフをする友だち、途中離席をする友だち、いろいろな友だちの姿を許容していた。
- ・自らも心配であれば、遠慮なくイヤーマフをしたり、個室に移動したりできる安心感を得ているようだった。
- ・友だち、教員、介助員、相談員など相談できる相手が多く、誰かが自分の悩みを聞いてくれる安心感も得ているようだった。
- ・それぞれの課題解決プロセスや学習進度が尊重され、やる気をもって授業に取り組んでいた。
- ・子どもと教員、子どもとおしの信頼関係が強かった。



教員の意識

別室学習

不登校対応校

通常の学級

自由な学び合い
グループルーム
相談員

イヤーマフの貸与
健康チーム
介助員

別室学習や不登校対応校もあるが、**通常の学級に戻し**、友だちと一緒に学ぶ姿を目指している。

スウェーデンの学校が課題だと感じていたこと

異なる教育課程の子ども（知的障害のある子どもの課程・ない子どもの課程）
に同じ教室で、同時に授業を行うことの難しさ

○ 対応策

- ・ 共通点を見出して指導
- ・ 研修の実施



今後の展望

- ・群馬のインクルーシブ教育に生かせる取組を精査し、モデル校（玉村町立上陽小学校）での実践につなげていく。
- ・今後、デンマークやスウェーデンの学校との連携や交流等を検討していく。
- ・両国の実践をインクルーシブ関連イベントで紹介し、啓発を図る。
- ・教員が一人一人のニーズにあった支援をするだけでなく、子供同士が多様な背景を理解する心を育てていくことで、だれもが居やすい心理的安全性のある空間を作っていく。
- ・インクルーシブ教育を進めるに当たっては、一人一人がエージェンシーを発揮し、主体性を伸ばすという教育ビジョンの考えに一致していること、そのために今進めている非認知能力の育成や外国人児童生徒への支援等と併せて、総合的にビジョンを進めていくことが重要である。

